

こどもの環境意識向上を目的とした絵本教材の提案

正会員 ○鈴木亜矢子 1*
正会員 久木 章江 2*環境保全
教材意識調査
絵本幼児教育
幼稚園

§ 1 はじめに

近年、地球環境問題は世界中で取り組むべき大きな課題となっている。しかしCO₂削減なども諸外国と比較した場合、日本の成果は少ないのが現状である。これを解消するためには、国民一人一人の環境意識を高めることが重要である。多くの人は、「環境問題に興味がある」と回答するものの、実活動として何か努力や工夫をしているかという点での回答は少なくなる¹⁾。そのため、行動が伴うレベルまで環境意識を高めるためには、早期から環境意識をもち、生活行動に根付かせることが今後の重要な課題であると考えられる。

現在、小学校の授業等でも環境教育が実施されつつあるが、本来の環境教育は生活習慣が身に付く段階で行う必要があると考えられる。昨年度の防災絵本²⁾に引き続き、幼児期からの環境に対する早期教育の必要性について調査を行い、絵本教材の提案を行った。

§ 2 幼児の環境意識

幼稚園教育は学校教育法第 77 条で目標が規定されており、「幼稚園教育要領」も平成元年に改善されたものを改定しながら使用している。近年では、教育要領や教師の視線による教育から、子供の視点を中心とする教育へと変化する傾向にあり、平成 10 年には幼稚園教育要領が改訂された（平成 12 年度から実施）。この改訂は完全週 5 日制のもと、ゆとりある教育活動を展開し、幼児に豊かな人間性や自ら学び自ら考える力など生きる力の基礎を育成することを基本的な狙いとしたものである。

また子供への対応も「教育」から「援助」へと変化している。教育内容は子供の人格形成の援助を基本とし、環境を意識した生活指導も学ぶ対象へと変化した。

このような背景をふまえ、現在の環境教育の実態と早期環境教育の可能性を把握するため、2004 年 8、9 月に幼稚園教諭および保育士 35 名、幼稚園児の保護者 18 名を対象に、アンケート調査を行った。

内容は幼稚園・保育園・家庭における環境教育の実施状況、環境教育早期化と教育絵本の必要性、絵本案についての意見を主としている。まず、環境に対する教育の実施状況を質問した結果を図 1 に示す。

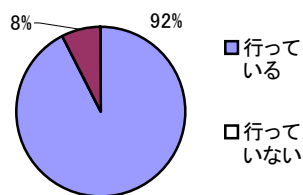


図 1 幼児に何か環境教育を行っているか？

人が殆どであり、具体的な内容には「ゴミの分別」「スイッチを消す」「エアコンの温度調節」が上位 3 項目となっている。なお、大部分の人が身近にできる事を行っている」と回答し、特別な活動をしている回答はみられなかった。次に早期環境教育の必要性に対する質問をした結果を図 2 に示す。

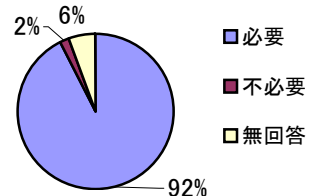


図 2 早期環境教育の必要性

多くの人が早期からの環境教育は必要だと考えている。その理由として「小さい年齢で知ったことは大きくなってからも覚えていること」「小さい時のほうが素直に覚えられ」「今後、実際に活動するためにも基礎知識が必要だから」などの意見が多く挙げられた。一方「早すぎる」「理解出来ないのではない」という意見もあった。

そこで、幼児用の環境絵本があった場合、子供に読ませたいと思うか否かを質問した結果を図 3 に示す。

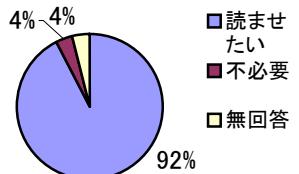


図 3 環境絵本を子供に読ませたいか？

環境教育絵本への興味は高く、多くの人が「読ませたい」「面白そうなら読む」と回答した。読ませたいと回答した人は、「小さい時に教えたほうが良い」「絵本は子供にとって馴染み深いものだから自然に教えられる」という意見があげられた。一方、必要を感じないと回答した人は、「絵本でなくても普段から教えているから必要ない」という意見であった。

§ 3 幼児用環境絵本の提案

アンケートでは環境意識の他、どのような絵本が望ましいと思うかについても調査した。その結果、以下の 3 点をふまえて、絵本教材の作成を行った。

1. 教育するような内容ではなく、自然に読む中で学ぶことのできる絵本とする
2. 自分たちの行動が、環境にどう関係し、どのような影響を与えるのかを考えるような内容とする
3. 読み聞かせ用の絵本とし、主人公のほかに、親のように話をしてくれるキャラクターを設定する

なお、教育絵本には、「子供が楽しんで読める」「話が身近である」「内容が具体的である」などの要素が必要とされ、知識よりも生活習慣を養っていく目的のものと考えられていることもわかった。

これらの目標をふまえた内容で3種類の絵本案を絵コンテで作成し、教材絵本としてどれが適しているかを質問した。その結果、一番評価の高かった案を採用し、絵本教材を作成した。採用した絵本の内容と絵コンテでの評価を表1に示す。

§ 4 幼児用環境絵本の評価

作成した絵本を用いて、再度評価用のアンケート調査を行った。対象は幼稚園教諭、保育士、幼稚園児の子供をもつ保護者計41名である。子供には読み聞かせの方式でみせてもらい、子供の興味度合や理解度を質問した。結果を図4、5に示す。

多くの子供は絵本の内容に興味と理解を示した。また絵本読み聞かせ後の子供の様子は様々な反応であった。

具体的な子供の反応としては、「自分の知っている環境の話をしてきた」「絵本を読んだ後、何も言わなくても、ゴミを捨てていた」「『みんながゴミを捨てちゃうから動物とかがかわいそう』と言った」「読み終わった時は内容を繰り返し、『ゴミはゴミ箱』『電気は大切に』と言っていた」などの回答があり、即時で影響のあった子供も少なくないことがわかった。また保護者に対して、「普段、どうして水を出しっぱなしにしているのか」「出かける時電気をつけて行くのは何故か」など、絵本で学んだ内容と親の生活行為との違いを比較し、質問するといった反応も多かった。子供は絵本教材で学んだ内容によって、やってはいけないことと、やらなくてはいけないことを判断し、自分でできること、普段行っていることの確認をするという反応をしたことがわかる。

また、ページ数、字の大きさ、色彩やデザイン、内容等についても細かく意見を得たが、おおむね好評であった。ただし、内容は適切であるという意見が多いものの、「少し難しい」「少し簡単すぎる」など、相反する意見もみられ、評価や反応に対する個人差もあることがわかる。

なお、絵本としての完成度を高めるために、修正すべき点についても質問し、これらを修正して絵本を完成させた。絵本の一部や修正部分・追加部分を図6に示す。

表1 採用した絵本案の内容と評価

内容	兄妹の子ブタがおじいちゃんから環境を守る大切さを教えてもらう
目的	今と昔を比較することで正誤をわかりやすくし、正しい事をするとうまい事が起こることも教える
評価	- 絵がかわいい - やさしい雰囲気 - 内容がわかりやすい - 今昔の比較はよいが、絵の表現がややわかりにくい - 具体的な説明が必要

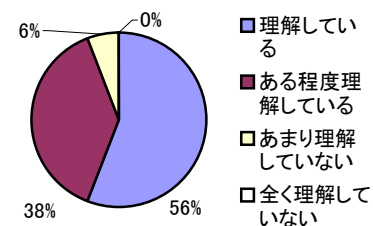
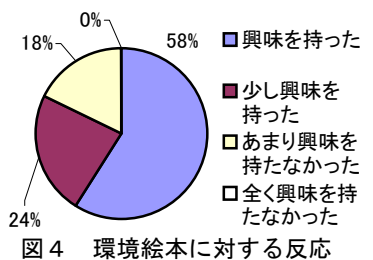
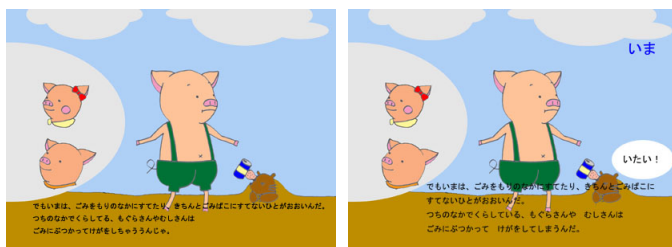


図5 環境絵本の理解度合



修正前

修正後



修正前

修正後



追加1（食べ物捨てない）

追加2（車の排ガス）

図6 絵本の内容（修正部分、追加部分等）

修正意見が多かった指摘は、文章の区切りに関するものであった。幼稚園教諭および保育士からは、絵本の文章では単語の区切りにスペースをあけること、キャラクターは癖のない話し方にするなどの指摘があった。

また、今と昔を比較する際に差が目立つようにする、何故なのかという子供の疑問が解決できるよう、理由を明確にするなどの修正も行った。

§ 5 おわりに

地球環境問題の解決にむけ、環境意識の向上と、省エネルギーやCO₂削減といった具体的な目標に応じた行動が期待される。しかしこのような生活行為を成人後、新たに認識させることは難しいため、生活習慣の形成段階にある幼児期の環境教育は効果が大きいと考えた。そこで絵本教材を作成し、子供の反応を調査した結果、多くの子供は行動や言動による即時反応を示すことがわかった。絵本で楽しく学ぶことは、幼児期に環境意識を根付かせるきっかけとして有効であることがわかった。

【謝辞】本研究を行うに当たって、多くの方にアンケート調査で協力頂いた。ここに深謝する次第である。

【引用文献】

- 1) 内閣府大臣官房政府広報室：地球温暖化防止とライフスタイルに関する世論調査、世論調査報告概要、平成13年7月調査。
<http://www8.cao.go.jp/survey/h13/h13-ndanka/index.html>
- 2) 飯泉知花、久木章江：幼児期の防災教育のあり方と教材の作成、日本建築学会大会学術講演梗概集、pp.739~740、2004年8月。
- 3) 荒井健之助：幼稚園教育要領解説、文部省、初版、平成11年6月15日。

*1 元文化女子大学

*2 文化女子大学 住環境学科 助教授・博士（学術）

*1 Student, Dept. of Dwelling Environment, Bunka Women's Univ.

*2 Assoc. Prof., Dept. of Dwelling Environment, Bunka Women's Univ., ph. D